

北海道民放クラブ会長
長沼 修



卯年の始めに「コロナ」で病と闘い、「ウクライナ」で人と闘い、そして「宗教」という人間の心と闘う日々を経て、さて、今年はどうなる年になるのだろうか。

今日日本では、男の子の名前に使われる漢字は「翔」(しょう)の字が一番多いのだという。大リーグで活躍する大谷翔平の影響もあるのだろうか。「翔」の字はなんとなく元気で男っぽい。辞書によると「翔」の字は「かけり」とも読み、飛んだり跳ねたり、能や狂言の立ち回りなど動きの速い場面に使われる音が語源だという。

2023年は卯年。兎は跳ねるのが得意だ。今年こそはコロナ禍もウクライナ戦争も〇〇教も一足飛びに飛び越えて、平和な世の中になってほしいと心から願う北国の年の初めだ。

東北民放クラブ会長
水上 健治



あけましておめでとうございます。

コロナ禍の3年間、当クラブの定時総会はやむを得ず中止に追い込まれており、会員の皆さんとの繋がりが希薄となつていくような気がします。何とかこの状態を打開しようと考え努力しているところです。再開された全国旅行支援策などにより世間では賑わいが復活してきそうな状況が見られます。しかし未だ景気とマッチした明るさは乏しいのが現状だと思われれます。でも、暗い話ばかりで萎縮してはいられません。当東北民放クラブでは、会員皆様のご協力を得て特に各同好会の更なる活動を期待しているところです。活動費の支援も少ないながらも効率的に運用されています。

毎年の願いであります。今年こそ良い年でありますよう願っております。

日本・関東民放クラブ理事長
榎本 恒幸



明けましておめでとうございます。

昨年はコロナ、ウクライナ、旧統一教会問題、円安・物価高など身近で我々の正義感を刺激する事件、事態に溢れていました。そのためニュース系番組が好視聴を獲得。視聴者の関心に応えたと思います。現役世代の多岐にわたるニュースをカバーした頑張り拍手を送ります。我々はリタイアライフを楽しみつつも現役世代同様に日々の出来事・その放送に関心を持ち続けたいと思います。

民放クラブはOB・OGのクラブですが、それに甘んじることなく各同好会などのコミュニケーションの場を通してお互いを刺激し合うことを心がけたいと考えています。

今後は元氣なOB・OG会員を増やし、多様な個性が集まるクラブとしていくことが目標です。そのための制度整備を現在作業中です。

北陸民放クラブ会長
伊藤 貴夫



この一年もコロナの波が高くなったり落ち着いたり、なかなかスケジュールを確定できませんでした。それでも恒例の吊るし柿作りはなんとか実施することができました。今回の目玉は餅つき。参加者の中で最も若い福井テレビOBの岩崎さんと大和さんが、頑張つてふた白ついてくれました。マスクごしでしたがついつい大きな声で「ヨイショヨイショ」と掛け声をかけてしまいました。搗き立ての餅のおいしさは勿論、声かけでテンションも上がりとても楽しいひと時でした。最近ではコロナのワクチンの他に、带状疱疹のワクチン接種のCM露出がまた多くなってきたように思います。コロナにインフルエンザ、带状疱疹ととも大変ですが上手く付き合いながら、お餅のように粘り強くいききたいものです。

東海民放クラブ会長
手塚 純夫



あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、お元気に新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年春先に勃発したウクライナへのロシアの侵攻には、びっくりしましたが、今後どのような終結をすれば世界が納得できるのか、見当もつきません。マスクと自粛生活にすっかり慣れてしまった私達は、ウクライナのことを考えれば、幸せな生活を送っていることで満足しなければいけないのかもしれない。

民放クラブの部活動は停滞気味ですが、それぞれの幹事さんの知恵と努力によって、少しずつ活発な楽しい活動へと、進んでいます。

今年に延期されました、民放クラブゴルフ会は、全国のゴルフ大好き仲間を名古屋屋にお迎えし、きつと楽しく開催できることを祈っております。

関西民放クラブ会長

山本 雅弘



当クラブの昨年の活動はコロナの影響でアクセルとブレーキの踏み換えに忙しい状態でした。

それでも恒例の総会と春の懇親会は実に3年ぶりに開催できました。日本民放クラブ、関東民放クラブからもご参加いただきありがとうございます。当日最も感動的だったのは、当クラブ合唱団「コールまかーな」のウクライナ国歌合唱でした。歌唱指導は戦場から逃れて京都で暮らす29歳の女性、アナスタシア・ホロシコさんで当日も参加というハプニングでした。一方で秋の懇親会と全国囲碁大会はコロナ第7波のため残念ながら断念せざるを得ませんでした。それでも約20ある同好会はコロナ対策に万全を期しながら活動を再開しています。今年も同好会間のコラボの動きも出ています。楽しい1年にしたいたいです。

中国民放クラブ会長

安東 善博



コロナとの付き合いも、「新型」から「平常型」に切り替わって、新しい年を迎えました。

ほぼ3年の活動自粛期間中に、1990年発足の中国民放クラブは30年を迎えました。この間、社会活動の意識も環境も大きく変わりました。今年30年の齢を祝いながら時代にあった民放クラブ活動の在り方を探りたいと思います。

中国地区での今年最大のイベントは、5月に広島で開くG7サミットです。大きく崩れた世界の平和秩序の再構築を広島からどう発信できるのか。被爆地出身の岸田首相の腕の見せ所です。

一方で、各国での市民レベルの平和活動が例え小さなものでも底流になれば平和は築けません。中国民放クラブは、その一翼を担う心構えです。

四国民放クラブ会長

白方 長廣



大きな耳
新年あけましておめでとう御座います。本年も宜しくお願いいたします。

今年「卯年」ですが、うさぎのことを12年前に関連会社の新年挨拶で社員に言ったことです。内容はうさぎはこれといった攻撃力がないのに生き延びているのは何故だろうか？ もちろん大きな耳で危険な情報を早く知り、身の安全を確保するからでしかも後足は俊足そのものです。人間の耳は小さくうさぎのように参りませんが、10人の耳、30人の耳と人数を増やせば大きな耳(情報量が多くなる)となる。そして、その情報を共有、活用するように話をしたことがあります。

めまぐるしく変化する社会に対応する為には、正確で迅速な情報が一層大切であると感ずる日々であります。

九州民放クラブ

大分副会長



令和も5年目を迎えました。今年は昨秋から続く物価の上昇と今春の賃上げの趨勢がどうなるか家計を預かる主夫として気になります。

さて、コロナ禍は昨年落ち着きを見せましたが年末にかけて再び感染者が増加基調に転じ、新年も先行き不透明感があります。九州の各地区ともコロナ禍による同好会活動の停滞と高齢化による会員数の減少に頭を痛めています。コロナ禍でも密にならず野外でできる健康ウォーク&ランやピワ栽培・収穫&試食会などを実施するのも会の活性化に繋がると思います。

コロナウイルス感染第8波が心配されますが今年こそは同好会活動などが活発に行われることを祈っています。

九州民放クラブの宮崎勝巳会長が昨秋に他界されたため代わりに執筆させていただきました。